

解答

- 問一 ー イ 2 ウ 3 ア
- 問二 共感によって信頼できる人間関係を確かめることができる一方で、共感が過剰になると暴力的になり、人間関係を壊すこともあるから。
- 問三 父親や仲間を殺した、「敵」であるはずの人間であるほくを信頼してくれて、無邪気で無防備な姿をさらしてくれ
たこと。
- 問四 頭で考える前に、自分の体（五感）を通じて、良いか悪いか、受け入れるか受け入れないかを決めること。
- 問五 人間の社会を豊かなよいものにしていくために、人間以外の動物の生活や社会を観察研究し、良いものを見つけたり、反面教師にしたりしていくことができるということ。

問一 正直、きたないと感じられ、身近にあってほしくないと思うもの。

問二 道徳的であったり上品であったりすることに偽善や嘘を感じてしまい、多少不道徳であっても「本音」で生きる
ほうがよいという考え方を「私」が持っているから。

問三 自分のことで精一杯な「私」にとっては、感じたり、考えたりする対象ですらないもの。

問一 さむらいの幽霊である父親との初対面なのだから、緊張して、うつむいたり黙り込んでしまうのは当然なのに、
母はふしぎそうにしていたから。

問二 ウ
問三 たとえ幽霊でも父親である草之丞に「一人前の男だな」と言われ、男として認められたうれしさと、子どもでは
いられないという責任感のようなものを感じ、少し切なくなっている。

問四 ア
問五 幽霊であっても、自分の好きな人を愛し続けることのできる、まっすぐで強く温かい心を持っている純粋な人だ
と思っている。

四

山のあなたの空遠く